

BIBLE + MESSAGE

人はうわべを見るが、主は心を見る。(Iサムエル 16章 7節)

私たちは目で見えるものしか見ることができません。当たり前のことかもしれませんが、目に見えないものを見ることはできないのです。ところが、主なる神様は、私たちが見ることのできない人の心の内側さえも見ることができるのだと聖書は教えています。

私たちの心の内側にある思いのすべてが、映画のようにスクリーンに映し出され、他の人に見られたとしたらどうでしょうか。とてもではないですが、私は外を歩くことができなくなってしまいます。良いことを考えることもありますが、人に知られたくないような悪い考えをすることもあるからです。皆さんはどうでしょうか？実際に、人間は心を見ることはできません。しかし、主なる神様は人の心の内側にあるすべての思いをご覧になっておられるというのです。

皆さんの心の内側は、いつも良い思いで満ちているのでしょうか？それとも、人に知られたくないような悪い心があるのでしょうか？もしも自分の心に悪い思いがあると気づいているのなら、その解決の道はただイエス・キリストにあることを覚えていただきたいと思います。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

2013年に放映されていたNHK大河ドラマ「八重の桜」。ご覧になっていた方も多いのではないのでしょうか。主人公の新島八重(旧姓・山本)は会津藩出身の女性です。彼女は銃と刀とをもつて戊辰戦争を戦いました。女性でありながら勇ましく戦った八重は、「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれることもあるそうです。

さて、この戦において父と夫を失った八重は1871年、京都府の顧問になっていた実兄、山本寛馬を頼って京都に行くこととなります。その翌年、八重は京都女紅場新英学校の教師補となり、女子教育に携わるようになるのです。そうしたなか、八重は後に夫となる宣教師の新島襄と出会います。

新島は八重の兄、覚馬とともに私塾(後の同志社)を開設するために入入りしていたのです。

こうして二人は婚約に至るのですが、新島のキリスト教主義の学校建設を阻止しようとする町の僧侶や神官たちの圧力により、八重は学校から解雇されることになってしまいました。当時はキリスト教が解禁されてから数年しか経っていません。そのため、キリスト教に対する迫害はまだ根強かったです。しかし八重は、「これで福音の真理を学ぶ時間がとれるわ」と語ったそうです。そして、翌年の正月2日、デイヴィス宣教師から洗礼を受け、翌3日、八重は襄と結婚するのです。ちなみに二人の結婚式は、日本人初となるキリ



新島 八重
(にいじま やえ)

1845年～1932年

スト教式で執り行われました。夫婦となった二人の姿は、当時の人々の目には、とても奇妙なものとして映ったようです。襄は妻を「八重さん」と呼びましたが、八重は夫を「ジョー」と呼びました。また、人力車に乗る時も、レディ・ファーストで八重が先に乗りました。時には二人仲良く散歩することもあったそうです。男尊女卑の時代にあつて、八重は男女平等を地でいく先駆的な女性だったのです。



新島襄・八重夫妻